

所信表明

二〇二六年度自治会連合会執行委員長選挙所信表明

自治会連合会執行委員長区分の立候補者は一名です（定数一名）

自治会連合会執行委員長候補

生命科学部 新四回生

吉田 滯乃（よしだ みおの）

この度、二〇二六年度自治会連合会執行委員長に立候補いたしました、生命科学部四回生の吉田滯乃と申します。本所信表明では、立候補に至った経緯と、来年度の自治会連合会執行委員長としての活動の方向性について述べさせていただきます。

【これまでの経験】

一回生から執行委員として活動に参画し、一回生の十一月から一年三ヶ月委員長を務めました。自治会の活動をあまり把握していない状態で委員長になることが決定し不安を抱いていました。その頃に全学自治会主催の対面の自治会会議に参加し、別学の自治会で活動している同期と出会いました。これをきっかけに自治会での活動に対するモチベーションが向上し、五者懇談会までの道のりやその他の活動内容についての方向性が輝いて見えました。

その後二回生の二月から全学自治会にも所属し、生命科学部自治会の委員長として自治会を導く立場でありながら、全学自治会の執行委員として自治会の支援を行う立

場となりました。その中で、他学部の自治会の活動内容や工夫方法を把握し、生命科学部自治会の活動に活かすことも可能となりました。

これらの経験から、自治会同士の繋がりを作ることによってモチベーションややりがいが増え、自治会についての知識を身につけることによって自治会の活動について見える可能性が広がるのではないかと考えました。

三回生では全学自治会の会計部長として、計五学部の自治会を担当し、全学自治会規約の改正にも携わりました。また、現在は2025年度の全学自治会委員長から推薦を受け、自治会連合会執行委員長代行として活動しております。

【方向性】

私は自治会連合会執行委員長として以下の四点を実施したいと考えております。

① 初年次担当との連携強化による、学部自治会支援体制の改善

各学部自治会においては、執行委員会とオリター団との連携が十分に取れていないことにより、トラブルが発生している状況が散見されます。そこで、自治会連合会における初年次担当と執行委員会との連携をより一層密にし、学部自治会の執行委員会とオリター団との関係性の改善を後押し致します。

また、初年次担当との定期的な情報共有を通じて、各学部のオリター団の状況や課題を把握した上で三役への支援を行うことで、学部自治会内における組織間連携を促進し、初年次施策がより円滑に進む体制の構築を目指します。

② 執行委員が成長できる環境の構築

前年度までの全学自治会では、執行委員のステータスに頼った運営を行っており、各執行委員のやる気や技量によって担当学部への支援のあり方は異なっていました。この状況に加え、自治会連合会では、前年度までの全学自治会のメンバーと異なり、自治会三役経験者や全学自治会経験者が圧倒的に少ないという状況に直面しています。このことから、自治会連合会(元全学自治会)の執行委員個人に頼った運営方法を見直す必要が生じています。そのため、執行委員が業務に対する不安を抱えずに活動できるようにするために、自治会連合会を単なる業務遂行の場ではなく執行委員自身の実務を通して成長できる場へと位置付け直します。

具体的には、各学部の自治会の三役のLINEグループを作成し、全学自治会での活動経験者が実際に各学部自治会との連絡を行う様子を間近で見られる環境を整え、業務の流れや判断のポイントを実践的に学べる体制を構築します。その後、執行委員が主体となって連絡業務を担当し、経験者がある内容や判断を確認・補助するOJT形式での運用を行います。これにより、失敗を過度に恐れることなく挑戦できる環境を整え、執行委員一人ひとりの成長を支援します。

③ 自治会の状況把握手段の変更

2024年度・2025年度に実施していた「全学部に担当者を配置する体制」は、執行委員一人ひとりが一定以上の全学自治会(現自治会連合会)での経験を得ている必要

がありました。これに対し、2026年度の全学自治会(現自治会連合会)経験者が限られている状況では、担当者の教育に係る業務負担が経験者に偏ることが予想されました。

この課題に対して、今後は支援の在り方を一律に定めるのではなく、各学部自治会の状況に応じて支援内容を柔軟に設計する体制へと転換します。

具体的には、Google フォームを用いて各学部自治会の現状や困りごとを定期的に収集し、その情報を基に必要な支援体制を構築します。これにより、限られた人的資源の中でも、最低限の労力で最大限の効果を発揮できる支援を実現します。

④ 戸惑いを軽減する情報提供体制の構築

各学部自治会の三役においては、学友会の慣例や過去の議論経緯が分からず、活動の中で戸惑いを抱える場面が少なくありません。こうした状況に対して、自ら積極的に情報を探しに行かなくとも、必要な知識に自然と触れられる環境を整えます。

具体的には、各学部自治会の三役が参加するLINEグループにおいて、定期的にコラム形式で情報発信を行います。前年度の全学議論の内容やその帰着点、学友会活動における典型的な事例等を共有することで、断片的ではなく文脈を持って知識を得られる仕組みを構築します。これにより、活動の中で生じる不安や戸惑いを軽減し、三役が自信を持って意思決定できる環境を整えます。

投開票日 二〇二六年二月一七日

立命館大学学友会中央選挙管理委員会